

廓清を省略できる進行直腸癌にも適応を拡大しつつある。今後は進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の治療成績も検討が必要であると考えられる。

E. 結論

当科の成績は概ね妥当なものとする。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Yusuke Kinugasa, Kenichi Suihara : Topology of the Fascial Structures in Rectal Surgery: Complete Cancer Resection and the Importance of Avoiding Autonomic Nerve Injury. Seminars in Colon & Rectal Surgery. 2010. 21:95-101

2) 絹笠 祐介、外科医のための大腸癌の診断と治療 5 大腸癌の外科治療外科治療総論直腸癌手術に必要な骨盤内解剖. 臨床外科. 2010. 65 : 190-196

2. 学会発表

1. 絹笠 祐介 膜解剖に則った腹腔鏡下直腸癌手術 第 13 回静岡県内視鏡外科学会
2010/07/10

2. 齊藤 修治、絹笠 祐介、塩見 明生、富岡 寛行、賀川 弘康、渡部 顕、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦 横行結腸と下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術定型化のポイントと問題点 第 65 回日本消化器外科学会
2010/07/14

3. 絹笠 祐介、齊藤 修治、塩見 明生、富岡 寛行、橋本 洋右 右側横行結腸癌に対する胃結腸静脈幹周囲の郭清を伴う腹腔鏡手術のコツとピットフォール 第 65 回日本消化器外科学会
2010/07/14

4. 絹笠 祐介、塩見 明生、山口 智

弘、塚本 俊輔、富岡 寛行、森谷 弘乃介、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦 骨盤内筋膜解剖を重視した自律神経温存腹腔鏡下直腸癌手術 第 85 回 中国四国外科学会総会
2010/09/03

5. 齊藤 修治、絹笠 祐介、塩見 明生、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦、佐藤 靖郎 横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の術前検査としての 3D-CT 血管造影の有用性 第 8 回日本消化器外科学会
2010/10/15

6. 絹笠 祐介、塩見 明生、山口 智弘、塚本 俊輔、富岡 寛行、森谷 弘乃介、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦 骨盤内筋膜解剖を重視した自律神経温存腹腔鏡下直腸癌手術 第 23 回日本内視鏡外科学会
2010/10/18

7. 塩見 明生、絹笠 祐介、山口 智弘、塚本 俊輔、富岡 寛行、森谷 弘乃介 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の短期および長期成績 第 23 回 日本内視鏡外科学会
2010/10/18

8. 富岡 寛行、絹笠 祐介、塩見 明生、山口 智弘、塚本 俊輔、森谷 弘乃介、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦 完全内蔵逆位に合併した横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の経験 第 23 回 日本内視鏡外科学会
2010/10/18

9. 絹笠 祐介、塩見 明生、山口 智弘、塚本 俊輔、富岡 寛行、森谷 弘乃介、坂東 悦郎、金本 秀行、寺島 雅典、上坂 克彦 直腸周囲の筋膜解剖と機能温存直腸癌手術のための剥離層 第 48 回 日本癌治療学会
2010/10/28

10. 塩見 明生、絹笠 祐介、山口 智

弘、塚本 俊輔、富岡 寛行、森谷 弘
乃介、古角 祐司郎、賀川 弘康、渡部
顕、別宮 絵美真、相川 佳子、高柳 智
保、松本 哲 腹腔鏡下直腸癌手術にお
ける問題点と対応 第65回日本大腸肛
門病学会 2010/11/26

11. 賀川 弘康、絹笠 祐介、松本 哲、
相川 佳子、高柳 智保、別宮 絵美真、
渡部 顕、古角 祐司郎、森谷 弘乃介、
富岡 寛行、塚本 俊輔、山口 智弘、
塩見 明生 大腸癌クリニカルパス16
8例の評価と安心・安全な早期退院の可
能性の検討 第65回日本大腸肛門病学
会 2010/11/26

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を
含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究

研究分担者 藤井 正一

横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター准教授

研究要旨 治癒切除可能な術前深達度T3、T4（他臓器浸潤除く）の大腸癌を対象として腹腔鏡下手術を施行した患者の遠隔成績を、標準手術である開腹手術と比較評価（非劣性）する。現在、症例登録は終了し経過を追跡中である。

A. 研究目的

本邦では大腸癌に対する腹腔鏡下手術施行例が急速に増加している。日本内視鏡外科学会による全国アンケート調査では、2009年までのデータで漿膜浸潤のある結腸癌を適応とする施設は、36%であった。しかし、術前深達度T3、T4（他臓器浸潤除く）の進行癌に対しての根治性に関して、標準手術である開腹手術と比較したエビデンスは未だ存在しない。国際的にはいくつかのtrialがなされ、その成績は同等であるとの結果も報告されているが、多くの報告は早期癌も含まれており、進行癌のみを対照とした質の高い報告は未だない。本研究はT3、T4（他臓器浸潤除く）の大腸癌に対し、腹腔鏡下手術の有効性について開腹手術と比較する非劣性試験で評価することを目的とする。

B. 研究方法

多施設無作為試験で施行した。対象症例は

1. 組織学的に大腸癌
2. 主占拠部位が盲腸、上行結腸、S状結腸、直腸S状部のいずれか
3. 術前画像診断でT3、T4（他臓器浸潤除く）、N0-2、M0
4. 多発病変を認めない
5. 腫瘍最大径8cm以下
6. 20歳以上75歳以下
7. 術前処置で不十分な腸閉塞がない
8. 胃を含む腸管切除の既往がない
9. 他のがん種に対する化学療法、放射線療法

のいずれの既往もない

10. 主要臓器機能が保たれている

11. 患者本人から文書で同意が得られている。術前にA群：開腹手術、B群：腹腔鏡下手術のランダム化割付を行い、これを施行する。手術のクオリティーコントロールとして、術中の写真撮影を義務付けられている。組織学的病期がstageⅢに対して、術後補助化学療法5-FU+1-LV（8週1コース×3コース）を施行する。

Primary endpointは全生存期間、Secondary endpointは無再発生存期間、術後早期経過、有害事象、開腹移行割合、腹腔鏡下手術完遂割合とした。

（倫理面への配慮）

横浜市立大学附属市民総合医療センター倫理委員会の承認を得て、研究者はヘルシンキ宣言に従って本試験を実施した。文書を用いてインフォームドコンセントを行い、登録者の同定は登録番号、イニシャル、生年月日、カルテ番号を用いて行われ、患者名などの個人情報データセンターに知られることはない。

C. 研究結果

2009年3月で登録は完了した。2009年は12例を登録し、当施設で合計66例の登録となった。腹腔鏡群に手技に関連した有害事象は認めなかった。当院の特徴として開業医の先生から腹腔鏡手術を紹介され、それをご希望されて来院される患者様が多いが、本研究の適応症例は全例に本研究の

社会的意義を説明し、2009年のみでは100%の同意取得率であった。

D. 考察

本研究は開腹手術と腹腔鏡下手術の比較で、T3あるいはT4の進行癌のみを対照としている。また日本内視鏡外科学会での技術認定医が手術担当と定められ、術中の写真判定も行っており、非常に質の高い比較研究である。

E. 結論

現在、順調に症例登録がなされている。本試験は非常に意義深いものであり、この結果は国際的にも強いインパクトを与えることになると思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Shoichi Fujii, Mitsuyoshi Ota, Yasushi Ichikawa, Shigeru Yamagishi, Kazuteru Watanabe, Kenji Tatsumi, Jun Watanabe, Hirokazu Suwa, Takashi Ohshima, Chikara Kunisaki, Shigeo Ohki, Itaru Endo, Hiroshi Shimada: Comparison of short, long-term surgical outcomes and mid-term health-related quality of life after laparoscopic and open resection for colorectal cancer: a case-matched control study. *International Journal of Colorectal Disease* 25: 1311-1323, 2010
- 2) 藤井正一、山岸茂、大田貢由、辰巳健志、渡辺一輝、諏訪宏和、大島貴、永野靖彦、市川靖史、國崎主税、大木繁男、遠藤格：大腸癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術の術後中期健康関連 QOL の比較。日本臨床外科学会雑誌 第 71 巻：634-642、2010 年

2. 学会発表

- 1) Shoichi Fujii, Shigeru Yamagishi, Mitsuyoshi Ota, Yasushi Ichikawa, Shunichi Osada, Kazuteru Watanabe, Hirokazu Suwa, Kenji Tatsumi, Yasuhiko Nagano, Takashi Oshima, Chikara Kunisaki, Shigeo Ohki, Itaru Endo:

Comparison of short, long-term surgical outcomes and mid-term health-related quality of life after laparoscopic and open resection for colorectal cancer: a case-matched control study. Annual meeting of Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES), 12th World Congress of Endoscopic Surgery, National Harbor, Maryland, USA, 2010

- 2) Shoichi Fujii, Shigeru Yamagishi, Mitsuyoshi Ota, Kazuteru Watanabe, Kenji Tatsumi, Hirokazu Suwa, Yasushi Ichikawa, Takashi Oshima, Ten'i Godai, Chikara Kunisaki, Shigeo Ohki, Itaru Endo: Single Incision Laparoscopic Surgery (SILS) with colon lifting method for colorectal cancer of early stage. 9th international conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, 2010
- 3) Shoichi Fujii, Shigeru Yamagishi, Mitsuyoshi Ota, Kazuteru Watanabe, Kenji Tatsumi, Hirokazu Suwa, Yasushi Ichikawa, Takashi Oshima, Ten'i Godai, Chikara Kunisaki, Shigeo Ohki, Itaru Endo: Single Incision Laparoscopic Surgery (SILS) with colon lifting method for colorectal cancer of early stage. 4th Scientific Meeting of the Japan-Hungary Surgical Society, Yokohama, 2010
- 4) 藤井正一、山岸茂、大田貢由、辰巳健志、渡辺一輝、諏訪宏和、佐藤勉、大島貴、永野靖彦、市川靖史、國崎主税、大木繁男、秋山浩利、遠藤格：Case-Matched Control studyによる大腸癌に対する内視鏡外科手術の長期成績と健康関連 QOL の中期成績の比較。第 110 回日本外科学会定期学術集会、名古屋、2010 年
- 5) 藤井正一、渡辺一輝、大田貢由、辰巳健志、諏訪宏和、五代天偉、大島 貴、市川靖史、國崎主税、遠藤 格：第 2 回単孔式内視鏡手術研究会、東京、2010 年
- 6) 藤井正一、山岸茂、大田貢由、諏訪宏和、辰巳健志、渡辺一輝、市川靖史、大島貴、國崎主税、遠藤格：横行結腸癌および下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の標準化に向けての工夫と治療成績。

第 65 回日本消化器外科学会総会、下関市、2010 年

- 7) 藤井正一、渡辺一輝、大田貢由、辰巳健志、諏訪宏和、五代天偉、大島貴、市川靖史、國崎主税、遠藤格:腹腔鏡下直腸癌手術の長期成績. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会、横浜市、2010 年
- 8) 藤井正一、渡辺一輝、大田貢由、辰巳健志、諏訪宏和、五代天偉、大島貴、市川靖史、國崎主税、遠藤格:大腸癌に対する単孔式腹腔鏡下手術の工夫と成績. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会、横浜市、2010 年
- 9) 藤井正一、大田貢由、渡辺一輝、五代天偉、諏訪宏和、辰巳健志、市川靖史、大島貴、大木繁男、國崎主税、遠藤格:結大腸癌に対する鏡視下手術の標準化に向けて一技術継承の工夫. 第 48 回日本癌治療学会総会、京都市、2010 年
- 10) 藤井正一、渡辺一輝、大田貢由、辰巳健志、諏訪宏和、山岸茂、大島貴、永野靖彦、市川靖史、國崎主税、大木繁男、遠藤格:Case-Matched Control study による大腸癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術の術後中期健康関連 QOL の比較. 第 72 回日本臨床外科学会総会、横浜市、2010 年
- 11) 藤井正一、大田貢由、渡辺一輝、五代天偉、諏訪宏和、辰巳健志、市川靖史、大島貴、大木繁男、國崎主税、遠藤格:横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の手技の工夫と治療成績. 第 72 回日本大腸肛門病学会総会、浜松市、2010 年

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. 健康危険情報
なし
4. その他

進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究

研究分担者 長谷川 博俊 慶應義塾大学医学部外科 専任講師

研究要旨

1. 進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術との根治性に関する多施設共同無作為比較試験を一昨年度登録終了後、引き続いて追跡調査をおこなった。これまで 74 例の適格例に対し 59 例登録を行い（IC 取得率：80%）、腹腔鏡下手術 30 例、開腹手術 29 例を施行し、現在追跡調査中である。
2. 呼吸機能低下症例に対する腹腔鏡下大腸切除術の安全性を明らかにするために、術前呼吸機能検査値と術後合併症の相関について検討した。腹腔鏡下手術を施行した患者 335 例中、術後合併症は 83 例（24.8%）に認め、そのうち呼吸器合併症は 4 例（1.2%）に認めた。呼吸機能検査値と術後合併症には有意な相関は認められなかった。FEV1/FCV が 70%以下の COPD 症例を 55 例（16.4%）、50%以下の中等度 COPD を 5 例（1.5%）認めたが、合併症の発生率、在院日数は呼吸機能正常群と同等であった。以上より、腹腔鏡下大腸手術は、適切な周術期管理のもとであれば中等度呼吸機能低下症例にも安全に施行可能であると考えられた。

A. 研究目的

1. 進行結腸癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術との大規模な無作為比較試験の結果が、アメリカと英国から報告された。それらによると、結腸癌に対する腹腔鏡下手術の長期予後は、開腹手術と同等である。しかし、開腹手術におけるリンパ節郭清などに関する欧米と本邦の技術格差、あるいは欧米の比較試験における開腹手術への高い移行率などの問題から、欧米での無作為比較試験の結果をそのまま、本邦にあてはめることは困難である。本邦において、進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術の治療成績が、開腹手術と同等であることを明らかにするために、16 年度より多施設共同の無作為比較試験を施行し、20 年度に症例登録を終えた。

2. 呼吸機能低下症例に対する腹腔鏡下大腸手術は、気腹や頭低位による機能的残器量の低下、高二酸化炭素血症などの問題点から、いまだその適応は確立していない。術前呼吸機能検査と術後合併症の発生率との相関を検討し、呼吸機能低下症例に対する腹腔鏡下大腸手術の適応を検討することを目的とした。

B. 研究方法

1. 進行大腸癌のうち、占居部位（C, A, S, Rs）、深達度（T3, T4 ただし他臓器浸潤は除く）、年齢 75 歳以下の症例を、術前にデータセンターにおいて、腹腔鏡下手術と開腹手術に割り付けた。同意を得られない症例に関しては、標準術式である開腹手術を施行した。今年度は、登録した症例の追跡調査を行った。

- 2002年1月から2008年1月までの間に当教室で、804症例に対し術前に呼吸機能検査を施行し大腸癌に対する切除術を施行した。そのうち腹腔鏡下手術を施行した335症例を対象とし、術後合併症発生率と術前呼吸機能検査の努力性肺活量(FVC)と1秒量(FEV1)との相関について比較検討した。

(倫理面への配慮)

- 本試験ではICが取得できない患者に対しては、標準治療である開腹手術を行った。
- Retrospective studyであり、患者からはICを得ることは事実上不可能であるが、患者個人情報の特定は発表データからはできない。

C. 研究結果

- 本試験には総計59例の登録を行った。また、IC取得できなかったのは15例であった。IC取得率80%であった。A群29例、B群30例でほぼ均等に割りつけられた。術中開腹移行は2例認めた。また腹膜再発はB群に3例認めた。また術中、術前には指摘されていなかった腹膜転移、肝転移をA群のみに認めた。
- 男女比は、男性177例、女性158例、年齢の平均値は63.9±11.6歳であった。術後合併症を例83例(24.8%)に認め、呼吸器合併症を4例(1.2%)に認めた。呼吸機能検査結果と術後合併症との相関について検討したところ、合併症全体、縫合不全などの重篤な合併症、呼吸器合併症、Surgical site infectionとFVC、FEV1の間に有意な相関は認められなかった。また、FEV1/FVCが70%以下のCOPD症例を55例(16.4%)、50%以下の中等度COPDを5例(1.5%)認めたが、合併症の発生率、在院日数は呼吸機能正常群と同等であった。

D. 考察

- 本試験は登録開始後、約5年で1050例を登録し、そのうち、当施設からは59例登録した。IC取得率も80%と高率であった。その理由として、当院では本臨床試験に参加の同意が得られない場合、標準手術である開腹手術を施行していることにあると推定された。すなわち患者の希望により、進行癌に対しては腹腔鏡下手術を選択することは当院では現時点(臨床試験施行期間中)ではできなかった。現在、追跡調査中であるが、B群での腹膜再発率が高いこと、術中腹膜転移の発見が少ないのが少々気がある。これは腹腔鏡下手術では術中腹腔内検索が開腹手術に比べて、十分に行うことができず、本来であればstage IVとなる症例がstage migrationを起こしているためとも推察できる。今後も慎重に経過観察を要すると思われる。
- 術前呼吸機能検査値からみた呼吸機能低下症例における腹腔鏡下大腸切除術は、安全に施行可能であった。また、中等度慢性閉塞性肺疾患患者における術後合併症の発生率、在院日数は、呼吸機能正常群と有意差を認めなかった。当院では術前呼吸機能検査をほぼルーチンに施行しているが、術後の呼吸器合併症を含めた術後合併症発生の予測には有用ではない可能性が示唆された。

E. 結論

- 進行大腸癌を対象とした本臨床試験に対する症例登録状況は良好であった。今後は脱落症例を作ることなく、全例慎重にフォローアップをしていく。

2. 腹腔鏡下大腸手術は、適切な周術期管理のもとであれば中等度呼吸機能低下症例にも安全に施行可能であると考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
 1. 岡林剛史, 長谷川博俊, 北川雄光: 浣腸時直腸穿孔. 消化器外科 臨時増刊号 第33巻第5号 へるす出版, 東京, pp. 925-926, 2010. 4. 20
 2. Y. Ishii Y, H. Hasegawa, T. Endo, K. Okabayashi, H. Ochiai, K. Moritani, M. Watanabe, Y. Kitagawa: Medium-term results of neoadjuvant systemic chemotherapy using irinotecan, 5-fluorouracil, and leucovorin in patients with locally advanced rectal cancer. *European Journal of Surgical Oncology (EJSO)* 10(1016):1-5, 2010
 3. 長谷川博俊, 岡林剛史, 北川雄光: 腹腔鏡下大腸全摘術, *Digestive Surgery Now* No. 9 下部消化管の腹腔鏡下手術, 正確な手術を行うためのコツ, *メディカルビュー*, 東京, pp. 107-122, 2010
 4. 長谷川博俊, 飯田修史, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 今枝博之, 北川雄光: [大腸癌に対する ESD] 慶應義塾大学病院での「外科の対応」, *臨床外科* 65 (8) : 1112~1115, 2010
 5. 長谷川博俊, 星野好則, 北川雄光: 4. 免疫抑制薬 (副腎皮質ホルモン剤を除いて), *外科* 72 (9) : 963~966, 2010
 6. Hiroshi Uchida, Ken Yamazaki, Mariko Fukuma, Tetsu Hayashida, Hirotoshi Hasegawa, Masaki Kitajima, Yuko Kitagawa, Michiie Sakamoto : Overexpression of leucine-rich repeat-containing G protein-coupled receptor 5 in colorectal cancer. *Cancer Science* 101(7) 1731-1737, 2010
 7. 長谷川博俊, 北川雄光: 4. 大腸の病気を治療する, 大腸がん患者の QOL, *からだの科学* 267 : 130~134, 2010
2. 学会発表
 1. 内田寛, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 林竜平, 森谷弘乃介, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 星野大樹, 松永篤志, 真杉洋平, 北川雄光: pT2 大腸癌における粘膜下層 budding: リンパ節転移予測因子としての意義. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 2. 林竜平, 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 岡林剛史, 内田寛, 飯田修史, 平田玲, 森谷弘乃介, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 上田政和, 北川雄光: 大腸癌の抗癌剤感受性における HSP27 の役割の解明. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 3. 星野好則, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 内田寛, 飯田修史, 林竜平, 代永和秀, 平田玲, 森谷弘乃介, 星野大樹, 松永篤志, 北川雄光: 内蔵肥満が直腸癌手術後の合併症に影響するか. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 4. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 内田寛, 林竜平, 平田玲, 森谷弘乃介, 代永和秀, 星野好則, 星野大樹, 北川雄光: Single Incisional Laparoscopic Surgery にて虫垂切除術を施行した 3 例<1 Incision 2 Port 法>. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 5. 岡林剛史, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠

- 藤高志, 北川雄光: 進行再発大腸癌に対する化学療法均てん化へ大学病院が果たすべき役割. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
6. 平田玲, 林田哲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 内田寛, 林竜平, 森谷弘乃介, 代永和秀, 北川雄光: 新規遺伝子 h171a による高感度大腸癌マーカーの開発. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 7. 星野大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 内田寛, 林竜平, 平田玲, 森谷弘乃介, 代永和秀, 松永篤志, 星野好則: 術前腹水 CT 値による消化管穿孔部位および転機の予測に関する検討. 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010, 名古屋.
 8. 代永和秀, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 内田寛, 林竜平, 平田玲, 森谷弘乃介, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光: 進行再発大腸癌における KRAS/BRAF 遺伝子変異から見た 1 次治療の効果の検討. 第 96 回日本消化器病学会総会, 2010, 新潟.
 9. 平田玲, 長谷川博俊, 北川雄光: 進行・再発大腸癌における KRAS, BRAF 遺伝子 mutation と cetuximab の治療効果の医療経済的検討. 第 96 回日本消化器病学会総会, 2010, 新潟.
 10. 星野大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光: 消化管穿孔部位別術前腹水 CT 値による検討. 第 73 回大腸癌研究会, 2010, 鹿児島県奄美市.
 11. 平田玲, 林田哲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 内田寛, 森谷弘乃介, 代永和秀, 北川雄光: 大腸癌進展における HOXB9 遺伝子発現の検討. 第 19 回日本がん転移学会学術集会・総会, 2010, 金沢.
 12. 長谷川博俊: 横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の標準化. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 13. 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 森谷弘乃介, 北川雄光: 大腸癌に対する抗癌剤感受性試験と分子標的薬 cetuximab の効果予測に基づいた治療戦略. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 14. 岡林剛史, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 北川雄光: 当院における単孔式腹腔鏡下腸切除の経験. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 15. 平田玲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 森谷弘乃介, 代永和秀, 田邊晃子, 村田満, 北川雄光: 大腸癌・炎症性腸疾患腹腔鏡手術において術前呼吸機能検査が合併症発生率に与える影響. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 16. 星野大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光: 早期大腸癌追加切除後の再発における内視鏡的治療の影響. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 17. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 星野好則, 星野大樹, 北川雄光: 潰瘍性大腸炎に対して腹腔鏡下大腸全摘術後, 妊娠出産をした 3 例 (4 出産). 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
 18. 内田寛, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 林竜平, 真杉洋平, 北川雄光: 粘膜下層における budding: 大腸癌予後予測因子としての意義. 第

- 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
19. 飯田修史, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 内田寛, 林竜平, 北川雄光: 大腸 pSM 癌に対する術後サーベイランスは必要か? -生存と医療経済から見た検討-. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
20. 代永和秀, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 平田玲, 森谷弘乃介, 北川雄光: 臨床経過に基づいた適切な術後サーベイランスについての検討. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
21. 星野好則, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 松永篤志, 星野大樹, 北川雄光: 大腸癌術後合併症予測因子の検討. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
22. 落合大樹, 大石崇, 徳山丞, 大住幸司, 浦上秀次郎, 石志紘, 磯部陽, 長谷川博俊, 北川雄光, 松本純夫: 原発性虫垂癌の 10 例. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
23. 森谷弘乃介, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 内田寛, 飯田修史, 林竜平, 北川雄光, 大腸癌術後フォローアップ研究会: pStage II 結腸癌の至適リンパ節郭清個数について. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
24. 新原正大, 竹内裕也, 平岩訓彦, 才川義朗, 長谷川博俊, 大山隆史, 和田則仁, 高橋常浩, 中村理恵子, 北川雄光: 胃癌・大腸癌の腹膜播種早期診断における末梢血循環癌細胞検出の有用性. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
25. 平岩訓彦, 竹内裕也, 長谷川博俊, 才川義朗, 和田則仁, 高橋常浩, 大山隆史, 中村理恵子, 北川雄光: 消化器癌において EpCAM は腫瘍増殖能・悪性度の指標となり得る. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 2010, 山口県下関市.
26. 井田陽介, 今枝博之, 細江直樹, 中溝裕雅, 別所理恵子, 斎藤理子, 小池祐司, 井上詠, 石井良幸, 長谷川博俊, 岩男泰, 緒方晴彦, 北川雄光, 日比紀文: 当院での直腸カルチノイド腫瘍の治療選択. 第 90 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2010, 東京.
27. 岡林剛史, 藤田知信, 宮崎潤一郎, 岡田勉, 岩田卓, 平尾薫丸, 野路しのぶ, 塚本信夫, 落合大樹, 長谷川博俊, 竹内裕也, 北川雄光, 河上裕: 癌精巢抗原 BORIS は食道癌新規予後因子である
Cancer-testis antigen BORIS is a novel prognostic marker for patients with esophageal cancer
. 第 69 回日本癌学会学術総会, 2010, 大阪.
28. 村山裕治, 高柳淳, 清水厚志, 小澤壮治, 才川義朗, 長谷川博俊, 神野浩光, 相浦浩一, 前川雅彦, 工藤純, 北川雄光, 北島政樹, 清水信義: 自作 BAC マイクロアレイを用いた胃癌・食道癌・大腸癌・乳癌のゲノム不安定性解析
Analysis of genomic instabilities in various cancer, using custom-made BAC-microarray. 第 69 回日本癌学会学術総会, 2010, 大阪.
29. 平田玲, 林田哲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 岡林剛史, 内田寛, 北川雄光: 大腸癌の進展における転写因子 HOXB9 の影響
A transcriptional factor HOXB9 promotes disease progression in colorectal cancer. 第 69 回日本癌学会学術総会, 2010, 大阪.
30. 落合大樹, 長谷川博俊, 大石崇, 石井良幸,

- 遠藤高志, 村田有也, 松本純夫, 北川雄光 : 血清 p53 抗体測定は, 大腸癌スクリーニングに有用か? Is it useful to measure serum p53 antibody for colorectal cancer screening?. 第 69 回日本癌学会学術総会, 2010, 大阪.
31. 小野嘉大, 林田哲, 小長井文乃, 河地茂行, 田邊稔, 長谷川博俊, 神野浩光, 佐谷秀行, 北島政樹, 北川雄光 : PSK による TGF β 経路および EMT 阻害効果の検討 PSK inhibits the TGFbeta pathway and EMT. 第 69 回日本癌学会学術総会, 2010, 大阪.
32. 落合大樹, 大石崇, 徳山丞, 内雄介, 川口義樹, 大住幸司, 浦上秀次郎, 石志紘, 島田敦, 松井哲, 磯部陽, 村田有也, 倉持茂, 長谷川博俊, 北川雄光, 松本純夫 : 虫垂原発の印環細胞癌の 1 例. 第 80 回日本消化器内視鏡学会総会, 2010, 横浜.
33. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 落合大樹, 平田玲, 森谷弘乃介, 代永和秀, 星野好則, 星野大樹, 北川雄光 : ブラウン変法を用いたバリウム注腸 X 線造影検査による大腸病変の検出. 第 80 回日本消化器内視鏡学会総会, 2010, 横浜.
34. 平田玲, 長谷川博俊, 北川雄光 : 潰瘍性大腸炎における術直前の免疫抑制剤使用が術後短期予後に与える影響. 第 80 回日本消化器内視鏡学会総会, 2010, 横浜.
35. 星野好則, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 飯田修史, 内田寛, 林竜平, 代永和秀, 平田玲, 森谷弘乃介, 星野大樹, 松永篤志, 北川雄光 : Crohn 病初回手術に対する腸切除の有効性. 第 8 回日本消化器外科学会大会, 2010, 横浜.
36. 森谷弘乃介, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光, 橋口さおり, 武田純三 : 消化器癌患者における緩和ケアの介入について. 第 8 回日本消化器外科学会大会, 2010, 横浜.
37. 星野大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 岡林剛史, 落合大樹, 平田玲, 森谷弘乃介, 代永和秀, 松永篤志, 星野好則, 北川雄光 : 消化管穿孔における術前腹水 CT 値の意義. 第 8 回日本消化器外科学会大会, 2010, 横浜.
38. 落合大樹, 大石崇, 徳山丞, 内雄介, 川口義樹, 大住幸司, 浦上秀次郎, 石志紘, 島田敦, 松井哲, 磯部陽, 村田有也, 倉持茂, 長谷川博俊, 北川雄光, 松本純夫 : 大腸癌における血清 p53 抗体価の有用性. 第 8 回日本消化器外科学会大会, 2010, 横浜.
39. 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 北川雄光 : 当科における腹腔鏡下直腸癌手術の update. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
40. 星野好則, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 松永篤志, 北川雄光 : メタボリック症候群が腹腔鏡下結腸癌手術に与える影響. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
41. 平田玲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 田邊晃子, 村田満, 北川雄光 : 呼吸機能低下症例に対する腹腔鏡下大腸手術の適応. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
42. 遠藤高志, 長谷川博俊, 石井良幸, 落合大樹, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 日比紀文, 北川雄光 : クロウン病における腹腔鏡下手術の適応について. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
43. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 岡林剛史, 平田玲, 代永和

- 秀, 星野好則, 星野大樹, 北川雄光 : Single Incision Laparoscopic Surgeryにて虫垂切除術を施行した5例の検討. 第23回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
44. 落合大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 北川雄光 : Stage4 大腸癌・原発巣切除に対する腹腔鏡下手術. 第23回日本内視鏡外科学会総会, 2010, 横浜.
45. 星野大樹, 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光 : 血液透析患者の再発大腸癌に対する FOLFIRI+ベバシズマブ療法の経験. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
46. 落合大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 北川雄光 : 結腸癌に対する腹腔鏡手術の長期成績. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
47. 星野好則, 岡林剛史, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 大家基嗣, 向井万起男, 北川雄光 : Sunitinib 加療中に消化管穿孔を合併した2例. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
48. 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 北川雄光 : 直腸癌に対する左結腸動脈温存 D3 郭清の要点. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
49. 平田玲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 岡林剛史, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光 : 大腸癌に対する cetuximab の治療効果と KRAS, BRAF のバイオマーカーとしての有用性. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
50. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 北川雄光 : 教室における進行再発大腸癌に対する Bevacizumab の使用経験. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
51. 代永和秀, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光 : 切除不能・進行再発大腸癌に対する TEGAFIRI+BV 併用療法の安全性の検討. 第48回日本癌治療学会学術集会, 2010, 京都.
52. 星野大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 星野剛, 北川雄光 : 術前腹水 CT 値は消化管穿孔部位の鑑別に有用か?. 第72回日本臨床外科学会総会, 2010, 横浜.
53. 星野好則, 竹内裕也, 尾原秀明, 藤村直樹, 平田玲, 和田則仁, 石井良幸, 神野浩光, 長谷川博俊, 田邊稔, 北川雄光 : サーベイランスに基づいた周術期感染対策-施設統計に基づくベストアプローチを目指して-. 第72回日本臨床外科学会総会, 2010, 横浜.
54. 松永篤志, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 向井万起男, 北川雄光 : 腸管子宮内膜症8症例の臨床病理学的検討. 第65回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
55. 茂田浩平, 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 瀬尾雄樹, 向井万起男, 北川雄光 : 成人の前仙骨部に発生した類皮嚢腫の1例. 第65回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
56. 星野好則, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高

- 志, 落合大樹, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 北川雄光: 直腸癌術後局所再発に対して Colorectal Tube を併用し Self Expandable Metallic Stent を挿入し得た 1 例. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
57. 星野大樹, 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 星野好則, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 向井万起男, 北川雄光: 家族性大腸腺腫症術後 35 年目に発生した回腸人工肛門部癌の 1 例. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
58. 落合大樹, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 平田玲, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 北川雄光: StageIV 大腸癌に対する原発巣切除は腹腔鏡手術か開腹手術か?. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
59. 石井良幸, 長谷川博俊, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 代永和秀, 北川雄光: 直腸癌に対する根治性と安全性を追求した腹腔鏡下手術手技. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
60. 遠藤高志, 長谷川博俊, 石井良幸, 落合大樹, 岡林剛史, 平田玲, 代永和秀, 北川雄光: 当院における腹腔鏡補助下低位前方切除術時の一時的回腸人工肛門造設手技について. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
61. 平田玲, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 代永和秀, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 茂田浩平, 瀬尾雄樹, 北川雄光: 再発 Crohn 病に対する腹腔鏡手術の有用性の検討. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
62. 代永和秀, 長谷川博俊, 石井良幸, 遠藤高志, 落合大樹, 平田玲, 星野大樹, 星野好則, 松永篤志, 北川雄光: 当院における Bevacizumab の使用経験. 第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2010, 浜松.
63. Yoshihiro Ono, Tetsu Hayashida, Ayano Konagai, Hirotooshi Hasegawa, Yoshiyuki Ishii, Takashi Endo, Koji Okabayashi, Shigeyuki Kawachi, Yuko Kitagawa: Inhibition of TGF β pathway and EMT by a protein-bound polysaccharide, PSK. AACR, 8th Joint Conference of the American Association for Cancer Research and the Japanese Cancer Association, 2010, Hawaii, USA.
64. S. Iida, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Kitagawa: Should Postoperative Surveillance for Patients with PT1 Colorectal Cancer Be Carried Out? The Analysis of Risk Factors Affecting Postoperative Recurrence and Cost-effectiveness on Screening. ASCRS Annual Meeting(The American Society of Colon & Rectal Surgeons Annual Scientific Meeting), 2010, Minneapolis, Minnesota.
65. H. Hoshino, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Hoshino, A. Matsunaga: Does Endoscopic Mucosal Resection for T1 Cancer has Influence on Long-term Outcome?. ASCRS Annual Meeting(The American Society of Colon & Rectal Surgeons Annual Scientific Meeting), 2010, Minneapolis, Minnesota.
66. H. Uchida, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Masugi, Y. Kitagawa: Tumor Budding in Submucosa: An Optimal Predictive Factor for

- Clinical Outcome in Colorectal Cancer. ASCRS Annual Meeting(The American Society of Colon & Rectal Surgeons Annual Scientific Meeting), 2010, Minneapolis, Minnesota.
67. K. Yonaga, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Kitagawa : Appropriate Postoperative Surveillance System Based on Clinical Outcomes. ASCRS Annual Meeting(The American Society of Colon & Rectal Surgeons Annual Scientific Meeting), 2010, Minneapolis, Minnesota.
68. Y. Hoshino, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Kitagawa : Impact on hip circumference for postoperative complications following colorectal surgery. Abstracts of the Association of Coloproctology of Great Britain and Ireland Annual Meeting , 2010, Bournemouth, UK.
69. A. Hirata, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Kitagawa : Preoperative spirometry test is useful for the prediction of postoperative pulmonary complications and mortality in octogenarian patients with colorectal cancer. Abstracts of the Association of Coloproctology of Great Britain and Ireland Annual Meeting , 2010, Bournemouth, UK.
70. A. Matsunaga, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Kitagawa : Surgical outcome of laparoscopic surgery for colorectal cancer/dysplasia arising from ulcerative colitis. Abstracts of the Association of Coloproctology of Great Britain and Ireland Annual Meeting , 2010, Bournemouth, UK.
71. Konosuke Moritani, Hirotoishi Hasegawa, Yoshiyuki Ishii, Takashi Endo, Koji Okabayashi, Kazuhide Yonaga, Akira Hirata, Yoshinori Hoshino, Hiroki Hoshino, Atsushi Matsunaga, Yuko Kitagawa : KRAS/BRAF gene mutation and response to treatment with cetuximab in metastatic colorectal cancer. 第9回アジア臨床腫瘍学会学術集会, 9th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society, 2010, 岐阜.
72. Kazuhide Yonaga, Hirotoishi Hasegawa, Yoshiyuki Ishii, Takashi Endo, Koji Okabayashi, Yuko Kitagawa : Appropriate postoperative surveillance system based on clinical outcome. 第9回アジア臨床腫瘍学会学術集会, 9th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society, 2010, 岐阜.
73. Yoshinori Hoshino, Hirotoishi Hasegawa, Yoshiyuki Ishii, Takashi Endo, Hiroki Ochiai, Koji Okabayashi, Akira Hirata, Kazuhide Yonaga, Atsushi Matsunaga, Hiroki Hoshino, Yuko Kitagawa : Obesity and Colorectal Cancer Surgery. The 4th Scientific Meeting of the Japan - Hungary Surgical Society , 2010 , Yokohama.
74. Hiroki Ochiai, Hirotoishi Hasegawa, Yoshiyuki Ishii, Takashi Endo, Sumio Matsumoto, Yuko Kitagawa : Usefulness Measuring Serum p53 Antibody for

Colorectal Cancer Screening. The 4th Scientific Meeting of the Japan-Hungary Surgical Society, 2010, Yokohama.

3. その他
なし

75. H. Hasegawa, S. Iida, K. Okabayashi, Y. Ishii, T. Endo & Y. Kitagawa : Analysis on risk factors affecting postoperative recurrence and cost-effectiveness on surveillance for patients with T1 colorectal cancer. Fifth Annual Meeting of the European Society of Coloproctology (ESCP), 2010, Sorrento, Italy.
76. H. Uchida, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, Y. Masugi & Y. Kitagawa : Tumour budding in the submucosa: an optimal predictive factor for clinical outcome in colorectal cancer. Fifth Annual Meeting of the European Society of Coloproctology (ESCP), 2010, Sorrento, Italy.
77. K. Moritani, H. Hasegawa, Y. Ishii, T. Endo, K. Okabayashi, H. Ochiai & Y. Kitagawa : Survival difference between right and left colon cancer: seventeen years of experience at a single institution. Fifth Annual Meeting of the European Society of Coloproctology (ESCP), 2010, Sorrento, Italy.

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし

進行性大腸がんに対する低侵襲性治療法の確立に関する研究

研究分担者 山口高史 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター外科

研究要旨：進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術との根治性に関するランダム化比較試験(JCOG0404)の参加 1 施設として症例を登録した。平成 17 年 12 月から平成 21 年 3 月までに 53 例の登録を行った。割り付けられた術式は、開腹 28 例、腹腔鏡 25 例であった。現在全症例を外来フォロー中である。

A. 研究目的

多施設共同研究である、進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術との根治性に関するランダム化比較試験 (JCOG0404) の参加 1 施設として症例を登録した。

なし

B. 研究方法

JCOG0404 研究実施計画書に基づき、適格症例に対して全例研究への参加を依頼した。当院における手術責任医は、開腹手術、腹腔鏡手術とも同一であり、術者または指導的助手として手術に参加した。

(倫理面への配慮)

患者さんには本研究の必要性、重要性などを十分に説明し理解していただき、信頼関係を構築した上で同意を得た。

C. 研究結果

平成 17 年 12 月から平成 21 年 3 月までに 53 例の登録を行った。割り付けられた術式は、開腹 28 例、腹腔鏡 25 例であった。現在全症例を外来にてフォロー中である。

D. 考察

全症例のプロトコール治療は終了し、フォロー中である。順調に研究の継続ができていると考える。

E. 結論

研究は順調に継続されており post 0404 の研究計画にも参加を予定している。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1.論文

山口高史、南口早智子ほか： 多発性直腸カルチノイドを合併した神経線維腫症 1 型の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 43 巻 2 号 Page202-207 2010

畑啓昭、山口高史ほか： 寒冷凝集素症患者に対し安全に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行しえた 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 第 43 巻 第 5 号 Page33-37 2010

Satoshi Ogiso・Takashi Yamaguchiほか : Introduction of laparoscopic low anterior resection for rectal cancer early during residency: a single institutional study on short-term outcomes.

Springer Science+Business Media, LLC 2010

SurgEndoscDOI

10.1007/s00464-010-1057-3

Satoshi Ogiso・Takashi Yamaguchiほか : Image of the Month. SPECIAL FEATURESECTION EDITOR: CARL E. BREDBERG, MD

©2010 American Medical Association. All rights reserved

Downloaded from www.archsurg.com at MEDICAL LIBRARY, on October 24, 2010

2.学会発表

山口高史 坂井 義治ほか：当院における下部直腸癌に対する側方郭清術. 第 65 回日本消化器外科学会雑誌. 2010

畑啓昭 山口高史ほか：大腸手術における周術期感染の予防・治療のストラテジー. 第 65 回日本消化器外科学会雑誌. 2010

小木曾 聡 山口高史ほか：肛門管癌，鼠径リンパ節転移に対する郭清の検討. 第 65 回日本消化器外科学会雑誌. 2010

福田明輝 山口高史ほか：当院における横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の定型化. 第 65 回日本消化器外科学会雑誌. 2010

山口高史：シンポジウム エキスパートに学ぶ手術手技のコツと標準化への工夫：消化管《ビデオ》『腹腔鏡下結腸左半切除の定型化』第 8 回日本消化器外科学会大会 2010

山口高史 坂井義治ほか：腹腔鏡下直腸前方切除術における直腸剥離・切離・吻合を安全に行うための工夫. 第 65 回日本大腸肛門病学会雑誌 63 巻 9 号 Page651 2010

西川元 山口高史ほか：化学療法が奏功した S 状結腸癌、骨髄癌腺症の 1 例. 第 72 回日本臨床外科学会総会 抄録 71 巻増刊 Page931

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究

研究分担者 正木忠彦

杏林大学病院 甲野直幸病院長

研究要旨 進行大腸癌における腹腔鏡下手術の有用性を明らかにするためにランダム化試験を施行している。腹腔鏡下手術は開腹手術に比して腹部創が小さいことにより疼痛が軽度で、美容面においても優れ、また腫瘍予後について遜色の無い結果が期待される。

A. 研究目的

進行大腸癌症例に対する腹腔鏡下手術の有用性を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

術前診断においてstage II, IIIの進行大腸癌症例において、インフォームドコンセント取得後、患者をランダムに割付し開腹手術、腹腔鏡下手術を決定する。根治手術施行後、術後病理診断においてstage III症例では、術後5FU・アイソボリンによる補助化学療法を施行する。

（倫理面への配慮）

症例の実名は記入せず登録を行い個人情報に配慮している。

C. 研究結果

登録した44例ではその後の経過観察が行われ（平均観察期間42か月（24～69））、stage II 26例において4例に再発（肝転移2例、肺転移2例：15%）を認め、stage IIIaでは9例中5例に再発（肝転移2例、肺転移2例、リンパ再発2例：56%）を認め、stage IIIbは4例中2例に再発（リンパ再発2例）50%に再発を認めたが（重複あり）、腹腔鏡群3例と開腹群5例と両群に有意差を認めていない。

D. 考察

手術の割付や患者のインフォームドコンセント取得においても特記する問題は無く、今後も本試験は継続可能と考えられる。

E. 結論

これまでのところ、両群において腫瘍予後に関して有意差を認めないものの、引き続き今後も症例の経過観察を要するものと思われる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表

Matsuoka H, et al. Impact of laparoscopic anterior resection on postoperative bowel function. Ann meet of SAGES. Apr 22-25, 2009 San Antonio, USA. (abstract p. 173)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究

研究分担者 村田 幸平 吹田市民病院 主任外科部長

研究要旨 ステージIV大腸がんに対する腹腔鏡手術の意義を検討した。cStage IV における腹腔鏡下原発巣切除は安全性に問題なく、腹腔鏡手術の低侵襲性を享受できることから、cStage IV 症例において有用であると考えられた。

A. 研究目的

cStage IV 大腸癌に対する原発巣切除手術は、術後早期に化学療法を行うため、また QOL 向上のため、安全かつ低侵襲に行われることが重要であり、腹腔鏡手術のよい適応と考えられる。しかしながら、その安全性、妥当性についての本邦での報告は少ない。本研究班の次期課題である、ステージIV大腸がんに対する腹腔鏡手術の意義について当院のデータを検討した。

B. 研究方法

cStage IV に対する原発巣切除症例を retrospective に検討し、腹腔鏡手術の安全性、有用性を考察した。

（倫理面への配慮）

カルテ情報を読み込むことによる retrospective な検討であり、患者個人情報が漏洩することのないよう配慮しており、倫理的な問題はないと判断した。

C. 研究結果

2006年4月から2009年12月までの間に切除不能進行大腸癌と診断され、原発巣を切除する目的で手術を行った29例（腹腔鏡21例、開腹8例）を対象とした。

平均手術時間は開腹239分（135-387）腹腔鏡200分（146-300）。平均出血量は開腹419cc（50-1500）腹腔鏡50cc（10-150）。合併症率は開腹62.5%（5/8）、腹腔鏡9.5%（2/21）であった。

手術後の化学療法は開腹7例、腹腔鏡17例に施行したが、開始までの日数の中央値は開腹21（16-255）、腹腔鏡28（11-137）とほぼ同等であった。

術前イレウス症例が多かったが、腹腔鏡手術群は経肛門イレウスチューブを使用している割合が高く、それにより安全に腹腔鏡手術を施行できていた。

開腹手術群は腹腔鏡手術群に比べ、合併症率が高く、術後在院日数が長かった。

術後の化学療法導入開始日、奏効率では両群で差を認めなかった。

化学療法導入不可5例のうち、4例はPS3であり、全身状態不良例に対する適応は検討の余地がある。

D. 考察

本研究は retrospective な研究であり、腹腔鏡と開腹で背景がことなるが、少なくとも腹腔鏡でできると判断して行われた手術で、合併症等で患者に不利な結果は出ていない。症例に応じて、患者にもっとも侵襲の少ない手術を行うことが、特にこのステージでは求められるが、腹腔鏡手術は有用となる可能性がある。

E. 結論

切除不能進行大腸癌における腹腔鏡下原発巣切除術は低侵襲に手術ができるため、有用な治療戦略の一つであり、安全性でも問題がないことを確認できた。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Tomimaru Y, Ide Y, and Murata K. Outcome of laparoscopic surgery for colon cancer in elderly patients. *Asian Journal of Endoscopic Surgery*, 2011(4);1-6. 2011.

Shimizu J, Ikeda K, Fukunaga M, Murata K, Miyamoto A, Umehsima K, Kobayashi T, and Monden M, Multicenter Prospective Randomized Phase II Study of Antimicrobial Prophylaxis in Low-Risk Patients Undergoing Colon Surgery, *Surg Today*, 2010(40); 954-957. 2010

村田幸平, 三上恒治, 山田昌秀, 井出義人, 大和田善之, 西垣貴彦, 長瀬博次, 向井亮太, 桃實徹, 村上昌裕, 岡田一幸, 柳沢哲, 戎井力, 横内秀起, 衣田誠克, 大腸癌化学療法中に発症した ITP に対する脾動脈塞栓, 癌と化学療法, 37(12); 2605-2607. 2010

西垣貴彦, 井出義人, 村田幸平, 大腸癌肝転移に対する全身化学療法後肝切除例の検討, 癌と化学療法, 37(12); 2566-2568. 2010

井出義人, 村田幸平, StageIV大腸癌に対する腹腔鏡下原発巣切除, 癌と化学療法, 37(12); 2582-2584. 2010

向井亮太, 井出義人, 村田幸平, 皮膚瘻を伴う下部直腸癌に対する骨盤内臓全摘術と腹直皮弁による会陰形成の1例, 癌と化学療法, 37(12); 2294-2296. 2010

村田幸平, 井出義人, 能浦真吾, 大植雅之, 亀山雅男, 衣田誠克, 腹腔鏡下低位前方切除における残存直腸洗浄の工夫, 手術, 64(13); 1959-1962. 2010

2. 学会発表

村田幸平, 井出義人, 丸山憲太郎, 横内秀起, 衣田誠克, 太田英夫, 柳沢哲, 岡田一幸, 向井亮太, 長瀬博次, 二次治療以降におけるベバジスマブの有用性, The 8th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 2010

井出義人, 横内秀起, 村田幸平, 進行再発大腸癌に対するセツキシマブの反応と K-ras 変異との関係, The 8th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 2010

村田幸平, 井出義人, 長瀬博次, 向井亮太, 岡田一幸, 柳沢哲, 太田英夫, 丸山憲太郎, 横内秀起, 衣田誠克, チーム医療を基盤とした化学療法, 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010

井出義人, 衣田誠克, 村田幸平, 進行大腸癌に対するセツキシマブの反応性と K-ras 遺伝子変異, 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010

長瀬博次, 井出義人, 村田幸平, 上腕静脈ポート留置症例の検討, 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 2010

村田幸平, 井出義人, 一般病院におけるセツキシマブの導入と k-ras 遺伝子変異検索, 第 96 回日本消化器病学会総会, 2010

井出義人, 井上信之, 村田幸平, 経肛門イレウスチューブを用いた閉塞性大腸癌に対する一期的腹腔鏡下手術, 第 96 回日本消化器病学会総会, 2010

村田幸平, 太田英夫, 丸山憲太郎, 横内秀起, 衣田誠克, 井出義人, 柳沢哲, 岡田一幸, 向井亮太, 長瀬博次, 腹腔鏡によるステージIV大腸癌原発巣切除術, 第 96 回日本消化器病学会総会, 2010

村田幸平, 井出義人, 三上恒治, 山田昌秀, 長瀬博次, 向井亮太, 岡田一幸, 横内秀起, 衣田誠克, 大腸癌化学療法中に発症